

自宅やオフィスの一角でOK、低コスト 水耕栽培キット開発

山正 農業未経験者層を開拓

農業資材や農薬、肥料などの販売を手掛ける山正(岐阜市市橋、堅田充宏社長)は、小さな空きスペースに低コストで設置できる水耕栽培キット「やさいプラントmini」を開発し、7月から販売に乗り出す。同社が一般消費者をターゲットにした初めての商品で、自宅やオフィスの一角を使った栽培を想定する。最短3日から導入可能で、価格も10万円から始められる。キットの設置から栽培指導まで継続的にサポートすることで、農業経験の少ない新たな顧客層の開拓を目指す。

(河合修)



オフィスの一角など空きスペースで導入できる水耕栽培キット「やさいプラントmini」=岐阜市市橋、山正

同キットは、発泡スチロールの槽に水と養分を入れ、近くに水道がなくても、野菜を栽培する。養分設置できる。最も短いキ

ットは長さ3尺、幅50センチ。希望に応じて長さを1・5尺ずつ増やすことができる。農家が栽培品種を増やしたい場合でも、ビニールハウスの空きスペースがあれば簡単に設置できる。

水耕栽培は植物に直接栄養を与えるため、土耕栽培よりも手間が少なく、一方、採算性を高めるには大規模な設備が必要のため、初期投資が導入のハードルとなっていた。

同社は、初期投資を少なくして水耕栽培が始めたいという顧客の声を受け、昨年11月に大垣西濃信用金庫(大垣市)の相談窓口「だいにしんビジネスてらす」に

相談。既存のトマト用水耕栽培キットを基に、発泡スチロールの底を浅くして葉物野菜を栽培できるよう改良を加えた。

一般消費者のほか、食育で野菜を栽培する学校や農業に取り組む障害者就労支

援施設への販売も見込む。社員が設置から栽培のアドバイスまで手掛け、生育への相談にも対応する。

堅田社長は「農業経験の少ない人や学校、福祉施設など農家以外にも販路を広げたい」と話している。